

闇の組織『イルミナティ』について

一般社団法人「武士道」顧問
幸福実現党 党员
与國秀行

墮天使ルシファーを崇拝するイルミナティ

『イルミナティ』とは、「光に照らされた者」という意味である。

かつて七大天使の一人であった「光の子」と呼ばれたルシフェル、この天使は、欲望に溺れ、嫉妬を抱いて、地獄に墮ちて悪魔ルシファーとなった。この墮天使ルシファーを崇拝しているのが、悪魔組織『イルミナティ』である。

「天使が墮天して悪魔となった」、この驚くべき霊的眞実かつ歴史的事実は、『新約聖書』の「イザヤ書」に記され、あるいは我が師・大川隆法先生著『太陽の法』第1章、もしくは『眞実への目覚め』の第5章に詳しく記されている。

今からはるかなる昔に、七大天使の一人であり、「智天使」とも「暁の子」「夜明けの子」とも呼ばれていた、「ルシフェル」という天使が、地獄界に墮ちて悪魔になりました。

それは神への嫉妬が原因だと言われています。その墮天使は、もともとは、光り輝く、智慧溢れる、美しい天使でした。しかし、みずからが神になれないということで、神に対する嫉妬を抑えることができなかつたのです。

彼は、地上に生まれ、「サタン」という名で人生を送りましたが、そのときに、権力欲や物質欲、支配欲、他の人への攻撃等を通して、心を真っ黒にし、天上界に還ることができなくなりました。

《中略》

しかも、単に、地獄に墮ちて自分一人が苦しんだだけではありません。その当時、人間として生きて悪をなした者たちが、浅い地獄界をつくり始めていましたが、この墮天使ルシフェルは、サタン、悪魔として地獄界に下りて以降、天上界に向かって戦いを挑み始めたのです。

この戦いとは何でしょうか。彼らは、天上界にいる人霊に対して手を出すことはできません。しかし、彼らは、「人間が地上に生きているあいだは、どちらかといえば、天上界よりも地獄界のほうに似た波動、波長を出している」ということに気がついたのでした。

そのため、地獄界の波動、波長を持って生きている人間を見つけては、そういう人間に、いろいろな悪霊を次々と取り憑かせて、その人間に破滅的な人生を送らせ、その人が死んだあとは地獄界に引き入れていきました。こうして、地獄界の人口を、どんどん増やしていったのです。

『眞実への目覚め』／第5章 愛と天使の働き／3 地獄霊の憑依の原因

フリーメイソンを隠れ蓑にしたイルミナティ

「イルミナティなんて組織が本当にいるのか?」、そう思われるかもしれないが、確かに存在している。

1776年にアダム・ヴァイスハウプトが、ロスチャイルドから依頼を受けて、ド

イツのバイエルンにて『イルミナティ』を創設した。

1776年という年はアメリカが建国された年でもある。アメリカの独立戦争は、1775年4月19日から1783年9月3日までの八年間にも及んでいるが、なぜかアメリカは建国の年を、イルミナティ創設と同じ1776年に選んでいる。

1785年、『イルミナティ』は凶悪な革命思想が暴露されて、バイエルン政府から解散命令が出された。そのために『イルミナティ』は、『フリーメイソン』という秘密の組織の中で、隠れながら生き続けた。

「フリーメイソンなんているの？」と思うかもしれないが、『フリーメイソン』は、日本の東京タワーの下にも「ロッジ」と呼ばれる支部があるくらいで、美容整形外科『高須クリニック』の院長の高須克也氏もメイソンのメンバーであることを公表している。だから『フリーメイソン』は、現実に存在している秘密組織である。

『メイソン』の歴史は古く、「中世から存在している」とも、「ギリシャ時代から始まった」とも、「エジプトのピラミッドを造った」とも、様々な説がある。

中世のヨーロッパにおいて、石工職人たちは、王族や貴族の城、あるいは教会などを建設するにあたり、けっして欠かすことのできない存在だった。しかし城を造る彼らは、城の抜け道や財宝の隠し部屋などを知っているために、城を完成させると、貴族や王様によって殺されてしまうこともしばしばあった。

そのために彼ら石工職人たちは、自分たちの身を守るために、城の見取り図を仲間同士で共有して、もし仮に自分たちが殺されたら、別の仲間がその見取り図を敵対する勢力に売るという形で、王族や貴族に脅しをかけることで、どうにか生きながらえてきた。

これが「自由な石工職人」、「フリーメイソン」という名称の由来だと云われている。

それは結局、フリーメイソンが貴族や王族に匹敵する権力を手にすることとなった。それと共に、当時のカトリック・キリスト教会が禁じていた、ギリシャ神話から続くヘルメス思想『エメラルド・タブレット』などを、フリーメイソンが密かに共有することにも繋がった。そのためにダ・ヴィンチやニュートンといった天才たちが、『メイソン』にその名を連ねた。

この秘密組織『フリーメイソン』を、悪魔組織『イルミナティ』は隠れ蓑にしてきたのである。つまり『イルミナティ』は、メイソンという秘密の組織の中で、さらに秘密の組織として生き続けてきたわけである。

この事実について、高須院長などはまったく知らない。なぜなら『メイソン』には33もの階級が存在し、彼はいわ下っぱの階級のために、まったく全体像を把握しき切れてはいないからである。

地球外知的生命体から指示を受けるイルミナティ

悪魔組織『イルミナティ』の計画、それは2012年に「New World Order」を完成させることでだった。彼らが望む世界は、人類の人口を5億人から10億人に抑制して、自分たちに都合の良い地球を築いて、人類を家畜牧場にするのである。

この計画は、「ジョージア・ガイド・ストーン」という石板にも記されている。

2012年とは、地球人類が「マヤ歴が終わる、人類が滅亡するかもしれない」と



東京タワーの下にあるメイソン

騒いだあの年である。

しかしプーチンやフセインといった数々の光の勢力に阻まれて、2012年の「NWO計画」は上手くはいかず、その後、イルミナティは内部分裂を起こす。

「イルミナティ最大の離反者」とも称され、元幹部を自称しているレオ・ザガミによれば、彼らは地球外知的生命体から“ガンマ線”を通じて指示を受けており、2012年以降は、その指示が来なくなってしまったのだと言う。

この「イルミナティ最大の離反者」レオ・ザガミの「ガンマ線を通じて地球外生命体から指示を得ている」という突拍子もない話は、ネットに2012年に突如、Youtubeにアップされた『地球人への手紙：レプティリアン -- アンドロメダ 2012年』という動画とも、内容が一致している。

レプタリアンと言え、『幸福実現党』および『幸福の科学』では、シュメール文明時代の神でもある“エンリル”が有名である。そして大川隆法先生が「宇宙の法」を説かれる際、まず最初に意見を述べてきたのがエンリルであった。『宇宙の法』入門の中で、エンリルは次のように述べている。



質問者 地球人にとって、宇宙人と交流することは、よいことなのでしょうか。それとも、恐ろしいことなのでしょうか。

エンリル 何を言っているのですか。われわれが地球の神なんです。われわれが、遺伝子操作によって、あなたがたをつくってきたんです。対等の立場で交流ができるなどと思ってはなりません。

あなたがたは、遺伝子操作で生まれた家畜と同じなんです。われわれの教えを受け、われわれの指導の下に文明をつくり、この世での進化を図り、そして、霊界にも新しい魂を供給するという役割を負っているのです。

『宇宙の法』入門／第1章 「宇宙の法」入門

「悪魔組織イルミナティが地球外知的生命体から指示を受けて、そして人類の人口を5億人から10億人にまで抑制して、地球を家畜牧場にしたい」という驚くべき、そして突拍子もない話は、エンリルの述べていることと繋がりがあがる。また大川先生のゾロアスターの霊言にある、「エンリルは善悪の両面を含んでいる神」という話とも合致している。

そして離反者ザガミの話によれば、彼ら『イルミナティ』は、2012年から25920年前に、地球外知的生命体と契約を結んで、そして自分たちの「NWO計画」を完成させて、その地球外知的生命体と契約を結び直す予定だったそうだ。だがその計画が上手くいかず、宇宙人から指示も来なくなったので、内部分裂を起こしたという。

P2 ロッジを通してバチカンと繋がるイルミナティ

さらに離反者レオ・ザガミの話によれば、「イタリアのフリーメーソンの P2 ロッジこそがイルミナティの隠れ蓑」だそうである。

「フリーメイソン P2 ロッジ」、この言葉も日本人にとっては聞きなれない名前だが、しかし「P2 ロッジ」は、イタリアの『フリーメーソン』のグランド・ロッジの下で、

正式に活動していたロッジの1つである。

しかしこの「P2 ロッジ」は、平和的な本来の『フリーメイソン』とは異なり、爆弾テロや経済犯罪など度重なる犯罪行為を行うばかりか、国家転覆計画などまで発覚したことで、1976年に『フリーメイソン』の承認を取り消されている。

しかしその後も、この『イルミナティ』の隠れ蓑である「P2 ロッジ」は存続し続けて、「ボローニャ駅爆破事件」、「カルヴィ暗殺事件」といったテロや暗殺事件などを起こしている。

1980年に起きた「ボローニャ駅爆破テロ事件」では、イタリアのボローニャ中央駅がほぼ全壊し、このテロによって85人が死亡、200人以上が負傷した。このテロ事件を、『メイソン』の元ロッジであったP2 ロッジが行ったことは、まぎれもない歴史的事実である。

では、P2 ロッジが行ったもう一つの重大事件、「カルヴィ暗殺事件」とは何か？

アンブロジーノ銀行の頭取であったロベルト・カルヴィという人物は、「神の銀行家」と呼ばれ、バチカン銀行との取引を一手に引き受けていた。彼は『メイソン』およびP2 ロッジに属する者であった。

このカルヴィが、1982年にロンドンのテムズ川にかかる橋で首吊り死体で発見された。ポケットには『メイソン・石工職人』の象徴であるレンガが入っていた。

バチカン銀行を通じて、悪魔勢力『イルミナティ』の隠れ蓑P2 ロッジと、キリスト教カトリック教会の総本山であるバチカンが繋がっていたのだ。

バチカンの悪魔的腐敗

「悪魔勢力と神を信仰する勢力が繋がっている」、それは信じがたい事実であるが、他にも証人がいる。

それはヨハネ・パウロ1世である。

教皇ヨハネ・パウロ1世は、バチカンが『フリーメイソン』の秘密組織「P2」に侵食されていることを知った。

そのためにヨハネ・パウロ1世は、バチカン銀行総裁マルチンクス司教の更迭を決めた。しかしその直後、彼は1978年9月に、在位わずか33日間で謎の死を遂げた。

「教皇ヨハネ・パウロ1世の暗殺疑惑」、この驚愕すべき事件を膨大な資料を駆使して描いたのが、イタリアのジャンルイーギ・ヌッツィという人物であり、この暗殺疑惑は、彼の著書『バチカン株式会社』（柏書房）に詳細に記されている。

ジャンルイーギ・ヌッツィという人物は、数学・工学・哲学・神学などの学位を取得し、企業経営者を経て、51歳のときに天職として聖職者の道を選んだ。そして彼は、豊かな知識と経験から、バチカン銀行で働くことになる。

そこで彼は、バチカンの腐敗ぶりを目の当たりにして、二十年という長い時間をかけて、メモや文書を丹念に整理して、4000点にも及ぶ資料を集めた。

しかし彼は、生前はバチカンの掟に従って、沈黙を守り続けた。

だがその膨大な資料を知人に預けて、次のように遺言を残した。「この書類を公表すること。何が起きたのかをみなが知るように」と。

こうして彼の死後、2010年に『バチカン株式会社—金融市場を動かす神の汚れた手』というおどろくべき書籍が発刊された。

この書籍にはなんと、バチカン銀行がマフィアとまで関係を持つばかりか、麻薬取引にまで深く関わっていることが記されている。

映画『スポットライト 世紀のスcoop』では、神父たちによる子どもたちに対する、酷い性的虐待の真実が明らかにされて、世界中に衝撃を与えたが、しかしバチカンがマフィアと関わり、麻薬取引にまで関わっていたことが、もしも事実であれば、さらなる衝撃を世界に与えることだろう。

こうしたバチカンの腐敗を正そうとしたがゆえに、ヨハネ・パウロ

1世は、在位わずか33日で暗殺されたと、ささやかれ続けているのである

この“暗殺説”を唱えているのが、イギリス人ジャーナリストのデビッド・ヤロップ氏である。彼が記したの『法王暗殺』（文藝春秋）によれば、当時のバチカンの“ナンバー2”であった国務長官ヴィロー枢機卿、バチカン銀行総裁ポール・マルチンクス大司教は、P2 ロッジのメンバーであったというのだ。そして新教皇となったヨハネ・パウロ1世は、この事実を知って2人の解任を決意したようだ。

しかしこの2人の背後には、同じく P2 ロッジのメンバーで、シチリア生まれのマフィアであるミケーレ・シンドーナがいた。「シチリア」、このイタリアの小さな島は、マフィアで有名な島である。

このヤロップが1985年に描いた「教皇暗殺説」を、そのまま映画に取り込んだのが、実は世界的に有名な『ゴッドファーザー』である。フランシス・フォード・ Coppolaの『ゴッドファーザーPART3』（1990年）を見ると、誰かものが不可解な気持ちにさせられる。なぜなら麻薬ビジネスにさえ関わり、シチリアに起源を持つアメリカのマフィアのドン・マイケル・コルレオーネ（アル・パチーノ）が、なぜかイタリアを舞台に、バチカンの聖職者たちと親密な付き合いをしているからだ。

神を信仰するはずのバチカンと、悪魔組織イルミナティが、深い関わりがあるかどうか、それはまだまだ真相究明の余地があると言えるだろう。しかしイルミナティの悪魔の独水が、P2 ロッジを通じて、バチカンに流れ、キリスト教にも入り込んだ可能性は、蛇の姿を形取った「パウロ6世ホール」など見ると、良くわかるのではないだろうか？なぜなら蛇は、『旧約聖書』において、悪魔が化けて、イヴを誘惑した生き物であり、キリスト教社会では忌み嫌われてきた生き物だからである。

パウロ6世ホール



幕末から日本に流れ込む悪魔の独水

P2 ロッジが「ボローニャ駅爆破事件」、「カルヴィ暗殺事件」を起こすと、『フリーメイソン』は、すでにロッジとしての認証を正式に取り消していたにも拘わらず、このロッジ P2 に対して、再度正式に「破門」を発表している。さらに 1981 年 12 月 24 日には、当時のアレッシンドロ・ペルティエニ、イタリア大統領が「ロッジ P2」に対して、「犯罪組織」として正式に指名している。

こうしたバチカンおよび P2 ロッジの闇を追っていくと、「イルミナティがフリーメイソン内部に隠れて、P2 ロッジがイルミナティの隠れ蓑であった」という話には、やはり信憑性が高くなっていく。

というよりも、実際に『フリーメイソン・イルミナティ』が存在していることが見えてくる。

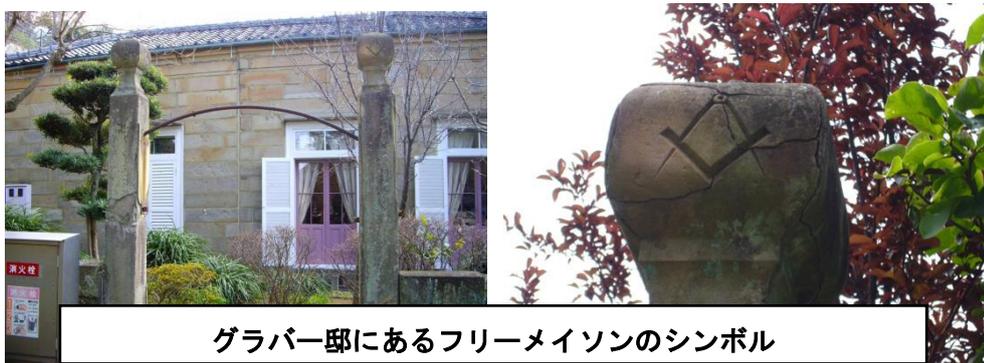
本来、『メイソン』は平和的な秘密の組織であったが、『イルミナティ』は悪魔崇拜組織であり、そしてこの悪魔の独水は、戦後、東京タワーの下に、メイソンのロジックが出来ることで、今もなお日本に入り込み続けている。元公安で、「日本最後のスパイ」とも称されている菅沼光弘氏も、戦後の日本はメイソンに侵されていることに警鐘を鳴らしている。

なぜ、日本が戦前と戦後で、これほどまでにありとあらゆることが変わってしまったか、それは教育、マスコミ、政治など、ありとあらゆる分野において、イルミナティの悪魔の毒水が、日本に入り込んでしまったからである。

いや、実のところ悪魔の毒水は戦前から入り込んでいた。彼ら悪魔勢力が最初に日本に侵略を仕掛けてきたのは、明治維新の頃のことである。幕末の歴史を紐解くと、日本人たちの侍たちに混じって、何とも不思議な人物がいる。トーマス・グラバーがその人である。

長崎のグラバー邸に行くと、たしかにメイソンのシンボルマークである定規とコンパスが刻み込まれている。

つまりトーマス・グラバー、そしてフリーメイソンを通じて、イルミナティの悪魔の独水は幕末からすでに日本にも入り込んできていたのである。ゆえに『イルミナティ』最大の離反者レオ・ザガミは、「日本はイルミナティの計画を150年に渡って控えてきた稀有な国であり、悪魔勢力は日本を神の国と認定して、最大敵国としている」と述べているわけである。



グラバー邸にあるフリーメイソンのシンボル

悪魔に勝てるのは神仏に対する信仰心

神を信仰するはずのキリスト教が、イルミナティの侵略をかなり許してしまった可能性は高い。それはバチカンの腐敗ぶりを見れば歴然である。しかし仏陀および八百万の神々を信仰してきた「神国日本」も、幕末からイルミナティの侵略が行われてきた。

『イルミナティ・フリーメイソン』による日本侵略、それが日本海軍の『水交社』である。『水交社』とは、日本海軍将校の親睦団体であり、この名前は中国の古典『莊子』の「君子の交わりは淡きこと水のごとし」に由来している。

この『水交社』の跡地に、日本の『フリーメイソン』の中核となる「日本グランド・ロジック」は建てられて、昭和33年に333メートルの東京タワーが建てられた。

悪魔は「6」とか、その半分の「3」という数字を好んで使う。

そして悪魔勢力によって建てられた東京タワーが、長らく日本の電波を支配し、テレビ、ラジオを牛耳ってきた。ゆえにどの電波の周波数も、「666」と関連している。

悪魔勢力に侵略されているから、日本の政治は腐敗し、なおかつマスコミは真実を報道せず、言論の自由が失われているのである。

我々は目覚めなければならない。信じがたいことは重々承知であるが、我々の敵は悪魔であり、地球外知的生命体であり、人間ではない。

悪魔に勝てるのは神仏だけである。ゆえに人間が悪魔に勝つには信仰心を武器に戦うしか道はない。

貴方は本当に悪魔に打ち勝つべく、神の勢力に属しているだろうか？

NHK第1	594kHz	5+9+4=18	=6+6+6
NHK第2	693kHz	6+9+3=18	=6+6+6
TBSラジオ	954kHz	9+5+4=18	=6+6+6
文化放送	1134kHz	11+3+4=18	=6+6+6
ニッポン放送	1242kHz	12+4+2=18	=6+6+6
ラジオ日本	1422kHz	14+2+2=18	=6+6+6